

YOUNG

自分はまだまだ子ども

新成人の「本音」座談会

13日は「成人の日」。今どきの若者は…「なんて紋切り型に若者像を語るオトナに、「真実の20歳」を知っていたらどうと座談会を開いた。成人式からちょうど20年目の先輩にもお祝いメッセージを寄せてもらったので併せて紹介する。

まごましたごみの分別がきちっとできる人(弓削田さん)、「仕事などでまとめ役になれ、多くの人がついてきてくれる人」(水田さん)。

(20歳の定義は…) 一つずつ段階踏んで物事を考えられる人

(今、欲しいもの…) お金も欲しいけど、それ以上に休みが欲しい



水田 佳奈子さん(小城市出身、佐賀市在住) 准看護師として働きながら、正看護師を目指して専門学校に通っている。



(20歳の決意は…) したいことをよく考えて、中途半端にせず続けること



藤木 良子さん(三日月町) 多様な素材を使い、絵画や美術作品を手掛ける。先月末、雑貨店を退職、現在休職中。

弓削田 健介さん(福岡県出身、佐賀市在住) 佐賀大学文化教育学部2年生。小学校教員を目指す。

大人の仲間入り、をする3人。「成人式」の位置づけはと聞いた。「成人式よりも、友人らと集まるのが楽しみ」と弓削田さん。水田さん、藤木さんも「振り袖が着られる特別な日」と声をそろえる。

もはや20歳は、大人への転換期ではないのだろうか。3人とも「自分はまだまだ子どもだ」と話す。大人の定義とは、「一つずつ段階を踏んで物事を考えられる人」(藤木さん)、「働くようになったら、それとこ

年齢よりむしろ仕事がきちんとできることを強く結びつけて考えているようだ。大人への過渡期にあるよ

うな3人。今欲しいものは何か。「学校が終わってから夜勤に入る日も」と話す水田さんは「お金も欲しいけど、それ以上に休みが欲しい。それから正看の免許」。

く。でも辞める、辞めると言いながらもずっと頑張っている人は周りにも多いですよ」と水田さん。

また選挙権が発生する年でもある。「選挙に行きますか」という質問には3人とも「多分、行かない」と答えた。「社会に興味がないということ自体が子どもなのかなと思うけど、公約は当選するまでのものという意識があるからかな」(弓削田さん)、「訴えていることを聞いても、本当にそう思っているのかなと思ってしまう」(水田さん)、「なんだか信用できない」(藤木さん)と政治家への見方は厳しかった。

それぞれ20歳の決意は一。水田さんが「自分で責任を取る」、藤木さんが「言ったことは守る」、弓削田さんが「したいことをよく考えて、中途半端にせず続けること」と語ってくれた。大人になりきれていないオトナにも、グサッとくる一言なのでは? 新成人のみなさん、おめでとう。そして大人からも尊敬されるすてきな大人になってくださいね。

弓削田さんは「周囲に追いつくために練習する毎日なので、タイムマシンがあれば子ども時代に帰ってピアノの練習をしたい」という。また充電期間中の藤木さんは「好きな洋服店でホールごと、とも思うけど、本当に欲しいのは物じゃない気がする。好きな絵や作品づくりを続け、何らかの形で仕事にできる力が欲しい」と話す。

共通するのは物ではなく、未来を切り開く力。「私たち若者に対して根気がない、やる気に欠けるという言葉をよく聞

不惑から新成人へ

名前	20歳の頃の夢	20歳へのメッセージ
下田 美穂子さん (鎌野町)	あのころは、結婚にあこがれていて「かわいいお嫁さんになりたい」と思っていたようです。(今思えば、色々考えていなかったんだと思います)	これからは大人としての権利を得ると同時に義務を果たすことも求められます。1人の大人の人間としてよく考えられて人生の目標を持ってほしい。
松尾 守蔵さん (西有田町)	バイトに、遊びに、読書に明け暮れてました。先のことはあまり考えずに、無為な日々を過ごしていました。今になってそれが役立っています。	現実を直視して、立ち向かってこそ夢は実現します。そのための体力と知力と勇気を若いうちに養ってほしいと思います。
古川 恵子さん (佐賀市)	当時は幼稚園教諭を目指す学生だったので、子どもたちに一番信頼される先生になることが夢でした。日本や世界のいろんな国で幼稚園教諭をやってみたいと思っていました。	自分の人生を自分の足で歩んでください。失敗やつらい思いはいつか必ず自分の力になることを信じて!人の真似じゃなく自分にしかできないことに自信を持って進んでください。
井上 英史さん (東与賀町)	自然が大好きだったので、野山を仕事場とする営林署の職員になることを夢見ていました。	小さいことでもいい。これだけは誰にも負けないというものを持ってほしい。若いときにしかできないことを追求してほしい。

(くみこ)